

運動部活動の指導経験者と指導を希望する学生の把握

調査概要

目的：本学学生の中学校や高等学校の運動部活動でのスポーツ指導の実態や、今後、本学が運動部活動の現場にスポーツ指導者を派遣する制度ができた場合の参加希望などについての把握。

対象：本学体育学部、教育学部の1～3年生●名(2019年5月1日現在の学生数)

期間：2019年9月30日～10月11日

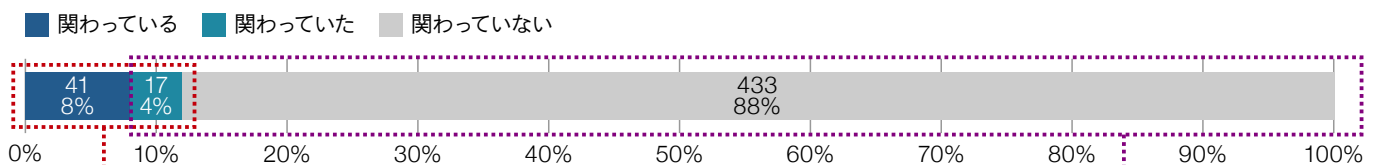
方法：ウェブアンケート調査(対象者にメールで配信)

内容：スポーツ指導の関与の有無や過去の経験、スポーツ指導における立場の種別(部活動指導員、外部指導者、ボランティアなど)など

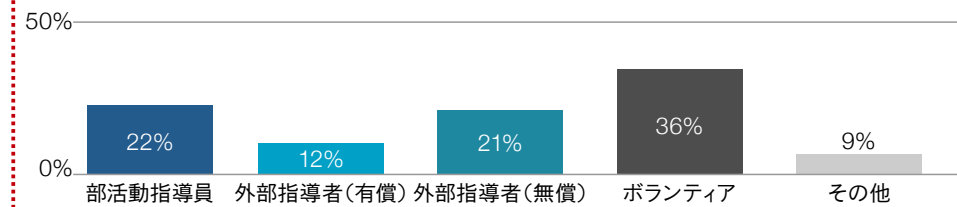
(1) 運動部活動の指導経験者と指導を希望する学生の把握

本学体育学部と教育学部の全学部生、大学院生、科目履修生、全2,852名(大学院生:62名、学部生:2,783名、科目履修生:7名、2019年9月末現在)を対象に、アンケート調査を実施(令和元年11月)した。運動部活動の指導者として部活動指導員や外部指導者、学生ボランティアとしてこれまで活動していた学生(17人)、あるいは現在活動している学生(41人)が、491人中併せて58人であった。その内訳は、部活動指導員が22%、有償の外部指導者が12%、無償の学部指導者が21%、ボランティアが36%、その他が9%である。指導している競技種目としては、バレーボール、バスケットボール、サッカー、陸上競技が上位に位置付く。

■図1：中・高校の運動部の指導者として関わっているか？(n=491)



■図2：指導者としての位置付け(n=58)



一方、現在、部活動指導に関わっていない学生(433人)と、これまで活動していた学生(17人)の計450人中、運動部活動の指導をすることができる学生は、132人(その他44人)の計176人が回答し、意欲を示した。

■図3：定期的に中学校や高等学校に出向き、運動部活動の指導をできるスポーツ種目(n=176)

